

2018年08月26日

第4回 ACP ファシリテーター養成研修

【修了者】

知多+

1) 三田幸司

MOA 健康生活館半田一和ぎー 療法士

2) 石川りえ

南知多町社協居宅介護支援事業所 介護支援専門員

3) 谷口さやか

訪問看護ステーションよってって 看護師

碧南市

4) 椴山進一

特養ひまわり 相談員

5) 加藤ゆかり

特養ひまわり 看護師

刈谷市

6) 齊藤多恵

刈谷豊田総合病院東分院 看護介護

瀬戸市

7) 高石早与子

地域包括支援センターせと 看護師・介護支援専門員

【ファシリテーター】

1) 溪村 大輔

知多小嶋地域連携室長 看護師

2) 勝木 大輔

通所介護事業所レモンの樹大府 生活相談員

3) 北川 渡

医療法人 北国会 北川内科 医師

4) 大城 京子

居宅介護事業支援所レモンの樹大府 介護支援専門員

5) 西川 満則

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部 医師

【参加者意見】

- ACP は医療者の理解だけでは前進できず、介護の現場や 後見人などの第三者、地域包括支援センターなどの地域での人間が寄り添って一緒に知識を得て前進することが必然と感じられました。
- 医療者が知識を持ち、先導することはもちろん必要です。しかし、同じ足並みで介護の現場が知識を持ち、周囲が本人と共に最終段階での決定、その委任等を話し合えたらこんなに素晴らしいことはないですよ。
- 今回得た知識を、今後、地域の特養など最終場面に出くわす可能性のある現場に少しでも還元できたらと本当に痛感し、出前講座やインスタント講座等も今後は考慮のうちなのではと、思いました。
- 微力ではありますが、勉強させて頂ける良い機会と感じておりますので、出来ることがあれば参加させて頂きたいと思います。
- ロールプレイによって本人、代理人、医師、ファシリテーター等役割を変更して演じることで自分の経験したことのない経験を想定し、想像することは難しく、正直言って、疲れましたが、大変収穫がありました。
- 本人、代理人への道案内、医師への橋渡しなど改めてファシリテーターの役割が大きいことを実感致しました。短い 1 日で未消化の部分が多く、機会がありましたら、また参加したいです。
- ファシリテーター役だけでなく代理決定者や患者役をすることによって仮定された状況下でそれぞれがどう答えを出すか、発言するかと考えることができとても勉強になりました。
- 患者の意思決定がされてない場合の代理決定者のストレスがどれ程強いかということを経験することができました。
- ACP を具体的に学ぶ中で、今の私に一番足りないことは「本人と向き合う覚悟」なのだと分かりました。不十分な理由は、認知症があるから、寝たきりだからなど様々です。介護しているのは家族だから、家族にとって良いようにする＝介護に余裕が出て、本人とも仲良くできる＝本人の満足という思い込みもありました。しかし、講義を受ける中で気づいたのは、「本人の意思を聞いて、家族やチームが考えた支援が出来なくなったらどうしよう」「本人の意思を聞き出す自信がないし、聞けたとしてもそれを最優先にできる自信がない」「聞き出す時に失敗して、嫌な思いをさせたり、怒らせてしまったら、今後がやりにくい」という、とても弱い本音でした。
- ACP に最も必要なのは、傾聴などのスキルや医療などの知識以上に、人と真剣に向き合う覚悟なのだと思います。まずは現在のご利用者様ともう一度向き合って、その方と話をするところから始めたいと思います。
- 今日習ったスキルを使いながら、その方にとっての最善を見つけ、最善を叶えられ

るチーム作りをし、一つ一つ対応していきたいです。

- ACP の普及に関しては、お話した通りなので問題は山積みですが、まずは隼より始めよ、の言葉通り、微力ながら私から始めていきたいと思います。

- これからも機会がありましたら ACP についてもっと勉強したいですし、より理解を深めるためにファシリテーターもやりたいです。